



暮らしが変わる

経済が変わる

■ 洪水調節

下流域を水害から守るため、洪水をダムに貯め込む容量（洪水調節容量）を約3.5倍に増強します。

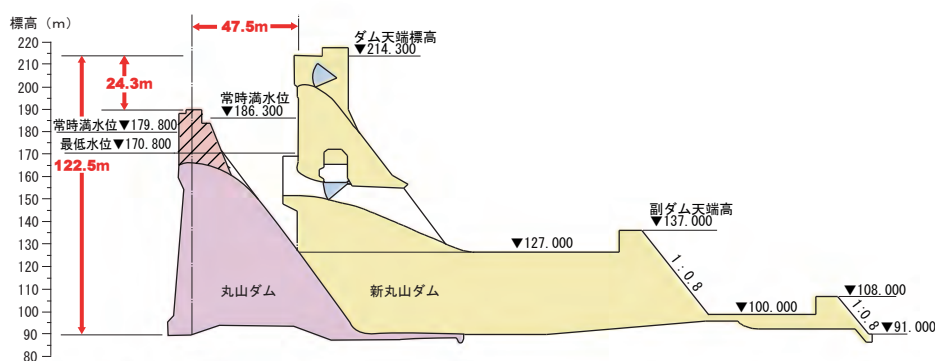
■ 流水の正常な機能の維持

下流河川の環境改善等のため、新丸山ダムで確保する15,000千m³の水（不特定容量）を使って河川に補給します。

■ 発電

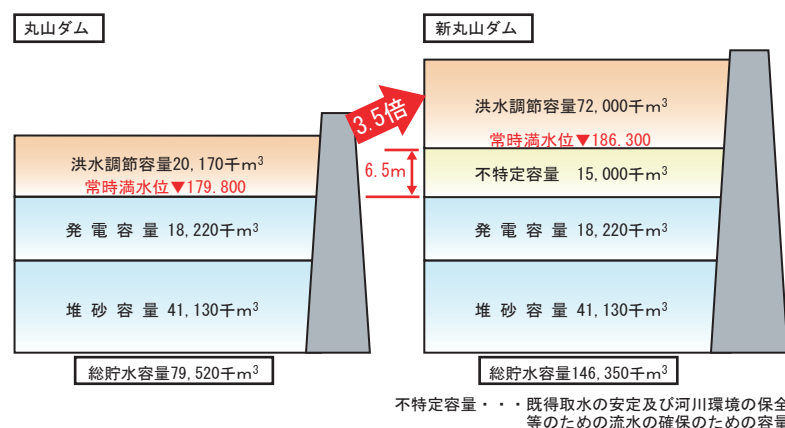
新丸山ダムの常時の水位が上がる（6.5m）ことにより、既設発電所の出力を増強します。

ダム標準断面図



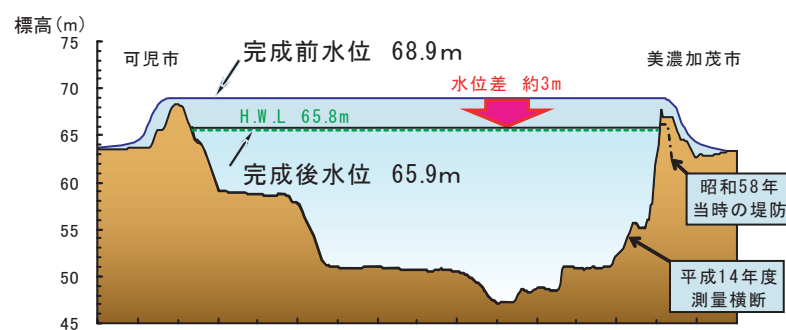
■ 部分は新丸山ダム完成時に撤去されます。

貯水池容量図



不特定容量・・・既得取水の安定及び河川環境の保全等のための流水の確保のための容量

新丸山ダムによる水位低下効果



67.0k（今渡ダム下流）地点における水位低下効果

※完成前水位68.9mは木曽川の既存ダム（岩屋ダム、阿木川ダム、味噌川ダム、丸山ダム）の洪水調節後の水位
※対象洪水：昭和58年9月（実績規模）

新丸山ダム事業の契機となった
昭和58年9月洪水の状況（美濃加茂市）



（出展）「忘れ得ぬ9.28災害 災害誌（美濃加茂市）」

国土交通省 中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所

〒505-0301 岐阜県加茂郡八百津町八百津3351

TEL. 0574-43-2780（代）

HPアドレス <http://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/>

みずしるべ

編集・発行
国土交通省中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所
〒505-0301 岐阜県加茂郡八百津町八百津3351
ホームページアドレス <http://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/>
メールアドレス shinmaru@cbr.mlit.go.jp

平成22年3月28日
祝開通

丸山バイパスの新旅足橋を渡り初めし開通を祝う

ホームページアドレス <http://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/>

2010
45



付け替え道路 一般国道418号丸山バイパス供用 (丸山トンネル～潮見)

一般国道418号丸山バイパス(丸山トンネル～潮見)約9kmが3月28日開通しました。丸山バイパスは新丸山ダムの建設に伴い洪水時に湛水する現一般国道418号の付け替え事業です。付け替える区間は、八百津町丸山から恵那市飯地町までの約15kmで、今回開通した八百津町丸山から潮見までの約9kmで、この区間の整備には平成8年3月から着手していました。丸山バイパスが出来る以前の道路は、道幅もせまく急カーブ・急こう配の区間が多くありましたが、今回の供用によって、安全性の向上及び通過時間・距離の短縮が図られることとなりました。また、今回の開通区間内にある「新旅足橋」は、橋脚と橋桁は通常は固定されないのですが橋の強度アップのために固定するタイプの橋で、これをラーメン橋と呼びますが、このタイプの橋では橋脚の中央部の間隔が220mもあり現時点では日本一であり、橋脚の高さも101mと3位で国内最大級の橋で、観光名所としても、今後の地域振興の一翼を担うものと大きく期待されます。

開通に先立って行われた八百津町主催による開通式典では、地元選出の国会議員をはじめ、県議会・町議会議員、関係行政機関及び地元の皆さんなど約300名が出席して行われました。

続く開通イベントでは、地元7組の三代夫婦による新旅足橋の渡り初めと、地元住民を含めたウォーキング参加者が、開通直前の新しい道路を自らの足で歩き、新しい道路の感触を楽しみ完成を喜びました。なかでも潮見小学校高学年の皆さんは一輪車に乗車して、水面からの高さが200mにもなる橋の上で、おそるおそるながらも楽しんで開通に花を添えました。



写真で見る開通式典



式典開始前に記念撮影



報道対応する職員



工事経過報告をする石原所長



地元自治会長らによるくす玉開披



町長を先頭に三代夫婦による渡り初め



練習して一輪車で上手に渡れました



ウォーキングを楽しみました



待ち受ける潮南の方々



渡り初め後の万歳三唱



パトカー先導によるパレード